浦山康子（国病久原会　名誉副会長）様のご逝去を悼む

国病久原会　会長　廣田典祥

皆様に広く親しまれていた浦山康子様が本院、長崎医療センターで病気療養中でしたが本年８月30日にご逝去になられました（享年８４歳）。会員を代表して謹んで哀悼の意を捧げます。

浦山様は、当会の副会長を平成16年から約11年間、務められました。

平成22年10月の国病久原会総会では、当時の病院長の米倉正大先生と相談して、記念講演「閉校に当たり看護学校の回顧」（閉校記念誌「あかしやの道」に収載）をやって頂きました。

これは、平成23年３月を以て、長崎医療センター附属看護学校が閉校になる直前でしたので、伝統のある当院附属看護学校の永い歴史を語っていただくのに最適任と思ったからです。故人は昭和30年（1955)、国立大村病院附属高等看護学院（当時の名称)の第６回卒業生であり、また、昭和40年から５年間、同高等看護学院の専任教員をされたからです。

簡単に、ご略歴を紹介しますと、昭和５７年に国立小浜病院総看護婦長、昭和61年、国立療養所大牟田病院看護部長を経て、平成元年に国立嬉野病院看護部長に就任されました。

私も国立嬉野病院に居ましたので、国立病院再編成計画の最中、労組との団体交渉に一緒に臨み、看護部長の浦山様に大変助けられました。あの、右の方へ、小首を少し傾げて、控えめに話される姿や温厚篤実な人柄が今も偲ばれます。

平成４年、同院の看護部長を定年退職。

浦山様はこれで終わる方ではありませんでした。その後も大村市医師会の訪問看護室の室長として、当時は全国的にも先駆的な訪問看護の分野を開拓され、大きな業績を残された方です。

平成９年春には勲五等瑞宝章の叙勲の栄誉に浴されました。

このように、生涯にわたる社会参加を実践され、多くの人の敬愛を集めて来られました。

大変驚いたことに、浦山様はご主人様と相前後して病没されましたので、夫婦揃って、同一日に、同一葬場で葬儀がとり行われました。お二人の棺が並列に安置されていました。これは究極の夫婦愛ではないかと感動を覚えたのは私一人ばかりではないはずです。お互い手をつないで、来世に旅立ってゆかれたことでしょう。浦山康子様、ご主人様とともに、安らかにお眠りください。